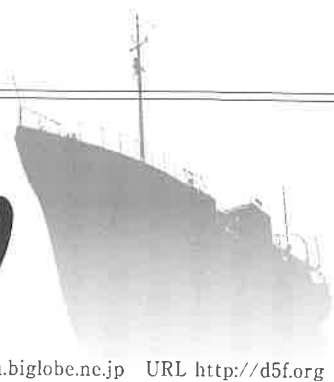


2016.07.01  
No.394  
(7・8月号)

# 福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



写真左・修学旅行や社会科見学の生徒たちにガイドも熱がこもる／写真右・開館40周年記念会にて挨拶する川崎代表理事、音楽構成劇の舞台より(2・3めん記事)



## 第五福竜丸からの発信を

### 開館40年から未来へ

第五福竜丸展示館は六月一日に開館から四〇年を迎えました。一九七六年六月の開館初日、最初の来館者感想ノートに記された言葉は、「夢の島で『夢』実現。9年間の保存運動・展示館完成」。これを書いたのは三井周さん。三井さんは当時、江東区建設労働者の組合、東京建設従業員組合(東建従)に勤めていました。

夢の島のゴミの海面に福竜丸が捨てられている、と新聞で知り見に来たのが最初(一九六八年三月初め)、三井さんはこう回想します。「船はゴミのどろどろの水の中に浮いて傾いて『はやぶさ丸』とあり、とても近づけない、なんだか寂しそうでした」(開館三〇年記念誌)。

三井さんや江東区職労の若島幸作さん、石川島播磨重工で働く深井平八郎さん、教員の堀田尊生さん、青木佳子さんなど地元のたくさんの方が

とが船を守ろうとごきだしました。保存のとりくみは、全国的な運動となり、船の前で原水爆禁止世界大会の分科会が開かれたり、豪雨で水没寸前の船から水を掻き出す作業や補修、福竜丸清掃のイベントや俳句人による吟行などとりくまれました。

東京都による夢の島公園の具体化と合わせるように船を保存する財団の設立、都との折衝により船を寄付し展示館を都が建設する途が開かれ、都立第五福竜丸展示館が完成しました。「いく度も保存できないのではと思った」と述べる三井さんの短い感想には感慨深いものがあります。

今年も修学旅行の季節となりたくさんの中学生、小学生が船と対面しました。船を遺した人、館を作った人(東京都)、運営してきた人とサポーター、その意思と保ちつづける希望が、第五福竜丸と展示館を支えます。

## 展示館開館四〇年を迎えて

### 記念レセプション開かる

五月二十九日、学士会館にて第五福竜丸展示館開館四〇年記念レセプションが開催されました。

はじめに主催者を代表して川崎昭一郎代表理事が挨拶、ビキニ被災六〇年（二〇一四年）・広島・長崎被爆七〇年（二〇一五年）・福竜丸建造七〇年（二〇一七年）とメモリアルイヤーが続くなか、戦後復興期に活躍した木造漁船がこのような形で保存展示されている施設はほかになく、漁業の実態や当時の社会、歴史を伝える社会教育施設としても貴重であること、保存に携わった多くの市民と東京都への感謝を表すとともに、老朽化する船体、展示館の保存とメンテナンスに関しての専門家の協力を得ること、さらに核の問題を広く発信するため、いっそうの支援をよびかけました。



つづいて来賓のトム・キジナー駐日マーシャル大使から感謝と連帯の挨拶がありました。また大使のよびかけで核被害者と九州の地震被害者へ

思いを寄せて全員で黙とうしました（通訳・中原聖乃協会専門委員）。展示館の前庭に八重紅大島桜を植樹して平和



### トム・キジナー 駐日マーシャル大使 挨拶（要旨）

核兵器の被害者に代わり、その記憶を継承すべく取り組み続けてこられた第五福竜丸



平和協会に敬意を評します。

アメリカ政府がマーシャル諸島で実施した核実験は、理解しがたいほど残酷なものでした。一九五四年ビキニ環礁で炸裂し、第五福竜丸の乗組員に多大な被害をもたらした水爆ブラボーは、私たち二つの国民が核兵器のない世界の創出に共に取り組むための、揺るぎなきシンボルです。

水爆ブラボーの被害者やその家族の思いを記憶するため、第五福竜丸が大切に後世

### 新たな出発

を願う東京地域婦人団体連盟の谷茂岡正子会長より乾杯のご発声があり、展示館を守ってきたすべての人への感謝をこめて杯を掲げました。

参加者は賛助会員をはじめ、被爆者団体、女性団体、宗教者、労働組合、研究者、アーティスト、議員、ジャーナリスト等スタッフを含め一三〇人が集い、にぎやかに交流しました。

会食を挟み、ステージでは音楽構成劇「最後の武器」第五福竜丸の航海はつづく」が上演されました。これは一九五八年安部公房・脚本、林光・音楽で二〇〇人の演劇人が上演した作品を、第五福竜丸展示館版としてリライト・演出したものです（脚本・構成（3めんにつづく）

に至るまで保存され続けることは、我々の希望にほかなりません。過去にも未来にも再び核兵器による惨禍を誰ひとりとして経験することのないよう、将来の残虐行為を未然に防ぐ装置として、歴史的記憶の重要性を認識しなくてはなりません。

久保山愛吉さんが遺した「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉は、マーシャル諸島国民にも共通する思いです。先日広島でのバラク・オバマ米大統領のスピーチは核なき世界の実現に対する期待を私たちに抱かせたものでした。核大国のリー

ダーによる核なき世界へ向けた言葉は、私たちが長い間待ち望んできたものであり、世界中の人々の目を覚まさせるものであったと思います。マーシャル諸島共和国国民の思いに寄り添い、第五福竜丸無線長の最期の言葉を思うと、世界が二度と水爆による脅威にさらされることのないことを願ってやみません。

本日、私たちは犠牲となった方々や、被害を受けた人々を思い、集いました。どうかマーシャル諸島や日本の核被害者の人びとを胸に刻み、これからも活動を続けていきたいと思います。願っております。



飯原道代)。同作品を演じた二〇一三年の展示館コンサート「新たな出航」とも一味違う、展示館の日常風景や元乗組員たちの青春も描いた作品となりました。出演は飯原道代、堀光太郎、酒井康行、新堂雅之、高橋素子、菊地彩、ピアノ・湯田亜希のみなさんです。

### 市民の力を信じて

音楽構成劇に大きな拍手が贈られた後は、各テーブルから参加者の紹介とご挨拶を受けました。

高木仁三郎市民基金の高木久仁子さんは「第五福竜丸を守り、発信する市民の力を信じましょう」と発言。東京の被爆者の会・東友会の家島昌志副会長は「被爆者にとって第五福竜丸展示館は大切な場所」と語りました。新俳句

人連盟の田中千恵子さんは「焼津まで秋空一枚遺言碑」というご自身の句を紹介しながら、第五福竜丸とビキニ被災は新たな文化を発信していること、また美術評論家の榎木野衣さんは、自身と福竜丸の関わりを披露し、岡本太郎氏をはじめ多くのアーティストが第五福竜丸を表現したことを紹介しました。

\*

レセプションに出席はかありませんでしたが、東京都東部公園緑地事務所・細岡晃所長、松井一實・広島市長、田上富久・長崎市長、第五福竜



丸の母港から中野弘道・焼津

市長、第五福竜丸建造の地・田嶋勝正串本町長、第五福竜丸保存に尽力された三井より子さん、第五福竜丸元乗組員・大石又七さん、立命館大学国際平和ミュージアムからメッセージが寄せられました。

### 東京都からのメッセージ

(要旨)

本年三月、第五福竜丸元漁労長・見崎吉男さんが亡くなられました。生前「いつまで

も福竜丸を展示してほしい」とおっしゃっていたとのこと

です。被災後、再びマグロ漁に就くことはなかった第五福竜丸は、水産大学の練習船を経て、廃船、放置されていましたが、船体が都に受け継がれ、一九七六年から都立夢の島公園の展示館で保存展示するに至りました。被災した一九五四年に登録された木造のマグロカツオ船で今日まで残っているのは第五福竜丸一隻だけのことです。まさに貴重な歴史

の証人です。

来館者は通算約五三〇万人になりました。折しも本年四月、広島市で開催された先進七か国(G7)外相会合にて、核軍縮や不拡散に向けた「広島宣言」が発表されました。これらを契機に都立公園施設の設置者としても、より多くの皆さんが展示館を見学される、第五福竜丸の保存展示の意義が一層広く伝わっていくことを願っています(開館40年記念誌「40年のあゆみ」に全文掲載)。

### 記念誌を 発行しました

展示館開館40年を記録した「40年のあゆみ」を発行しました。

川崎昭一郎代表理事のによる報告・論稿では、船体の廃船から保存の取り組み、開館以降の約半世紀を概観し、現在に至るまでの第五福竜丸とビキニ事件を知らせる学習会や企画展、歴史的な来館者など記録写

真とともにたどっています。

またコラム「世界の核の



博物館を見る」(豊崎博光・協会専門委員)、「ともに歩んできた30年」(榛葉文枝・評議員)「見学会、学習体

験旅行、そしてー」(川口重雄・理事)「博物館という視点でみる」(安田和也事務局長)も所収し、来館者数の推移など、資料編も充実。特別付録ポスター「世界の核爆発実験年表」(4めん詳細)もついて六〇〇円で頒布いたします。館内ミュージアムショップでも購入できるほか、郵送もできます(送料・四冊まで一〇〇円)。ぜひ周りの方にもお勧めください。

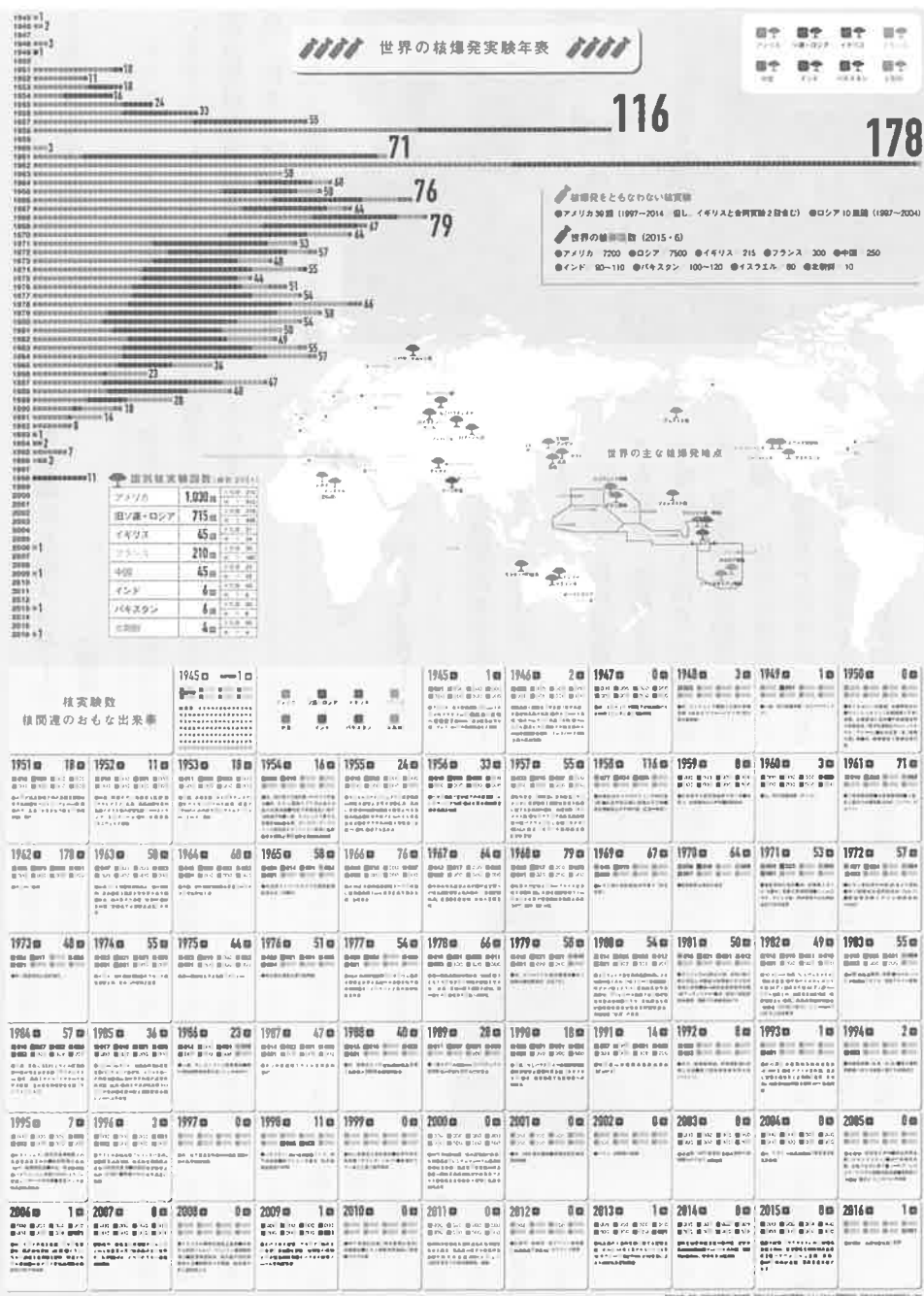
# 〈世界の核爆発実験年表〉

## ポスターが完成

四〇年記念誌と併せて、ポスター「世界の核爆発実験年表」を製作しました。これは展示館に常設展示されている核実験の歴史を視覚的に表した年表のポスター版です。この年表を資料にして欲しいという要望を多くいただき、ポスターにしました。

B2判のポスターは上下二つのパートで構成され、上部分はこのまでに行われた核爆発実験の回数を国別のグラフに表し核実験場の地図も入っています。下部分は核兵器に関する主な出来事の年表です。

上部分のグラフでは、一九四五年から今日までの核爆発



実験の全てを点の数で示しました。一回の実験を一つの点とし、年ごとに表記しました。これを見ると、五〇年代の終わりから六〇年代のはじめにかけて突出して多くの核実験が行われていたことが、ひと目で分かります。またどの国

がより多くの核実験を実施してきたのかも一目瞭然です。核爆発を伴わないタイプの核実験に関しては別欄に記載しました。

下部分は、年ごとの核実験実施国とその回数、関連する出来事を示した年表です。例

えば、一九五九年には核実験の一時停止を米英ソの参加国が表明しており、その年に実験は一度も行われませんでした。

世界地図上の核実験場の位置からは、核保有国が本国から遠く離れた地域、旧植民地

などで実験を行ってきたこともわかります。上下を併せてみることで、核開発・核軍拡・核交渉などの歴史を理解することができそうです。

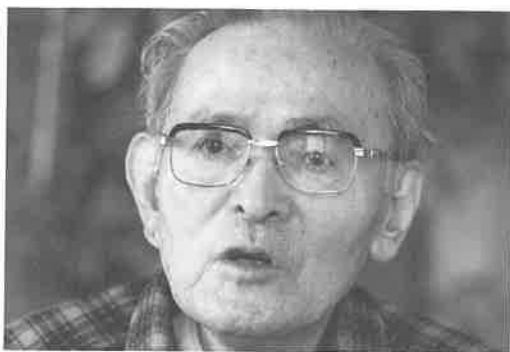
このポスターを核実験の歴史・経緯を考える材料としてご活用ください。

### ポスター 〈世界の核爆発実験年表〉

(開館40周年記念誌『都立第五福竜丸展示館40年のあゆみ』特別付録)

◆ B2判 (690mm × 490mm)

◆ 一部300円 (税込)



第五福竜丸元乗組員・大石又七さんの呼びかけで募金が

## 大石又七さんは訴える マグロ塚署名始まる

集められ、暫定的に展示館横に設置されているマグロ塚。中央市場の移転後にあらためて築地にマグロ塚を移設するよう求める署名が呼びかけられています。

太平洋核実験により多くの漁船が被災し、「放射能マグロ」騒動となり、たくさんのマグロが地中や海に捨てられました。埋められたマグロ、食卓に上がったマグロにも、まぐろ好きな日本人らしく、

供養と感謝の思いをよせて「マグロ塚」を作りたい、それは核兵器の怖さと平和の尊さもさりげなく訴え続けてくれる。そのような思いのもと、大石さんは一九九七年にマグロ塚設置をよびかけ、署名とともに一〇円募金を開始しました。全国の市民、とりわけ大石さんの講話を聴いた小学生、中学生からの賛同が寄せられました。

東京都との交渉で、中央市場の移転問題により塚の設置はかたやいせんでしたが、一九九九年、市場正門にプレイトが設置されることとなりました。その後、二〇〇〇年四月、展示館の横にマグロ塚が

仮設置され現在に至ります。

中央市場は本年一〇月末に閉場となり、豊洲に移転、一月より解体が始まることになっていきます。中央市場の跡地利用については今後検討されることとなりますが、「築地にマグロ塚を作る会(代表・大石又七)」では跡地の一角にマグロ塚を移設したいと考え署名を開始しました。

大石さんは現在、腰椎圧迫骨折のため入院療養中ですが、「現在核をめぐる状況は深刻です。しかしそうした状況を自覚せずに暮らしていることが、どんなに恐ろしいことなのかを、若い方たちに伝えなくてはと、いつも考えています。マグロ塚は私たちがいなくなった後にも残り、ビキニ事件のこと、放射能の恐ろしさを伝えてくれます。築地にマグロ塚を永久設置することの後世に伝えていきたいと思っています」と訴えています。署名の問い合わせ、送付先は「築地にマグロ塚を作る会」事務局・及川佐。〒1771・0043 東京都豊島区要町3・1・13・520 電話090・4818・7709

### BOOK REVIEW

#### ◆丸浜江里子『ほうしゃの雨はもういらぬ』(凱風社)

表題「ほうしゃの雨」は、核実験により日本各地に降り注いだ「放射能雨」と我が子についてのある母の投書に由来する。著者の前著『原水禁署名運動の誕生―東京・杉並の住民パワーと水脈』は東日本大震災前に書かれた。本書では東京電力福島第一原子力発電所事故後に書かれた、日本への原発導入に関する論考と日米核同盟研究に依拠し、核の軍事利用・平和利用が両立していく経緯を、ビキニ水爆被災の事件と結んでたどる。五〇年代の「核と民衆」の構図を描きながら、かつてない広がりや高揚をみせた原水爆禁止運動に見るべき諸点を、現在の民衆運動に生かしたいとの願いが込められている。



#### ◆木村朗・高橋博子『核の戦後史 Q&Aで学ぶ原爆・原発・被ばくの真実』(創元社)



原爆投下の経緯、戦後の核・放射能にまつわる政治や外交を、第一部では木村氏が原爆投下の経緯・背景と核の戦後史の見方についてのポイントを解説し、第二部は高橋氏が米公文書等から、日米の核戦略、放射能汚染やヒバクシャに対する日米政府の対応について解き明かしていく。Q&A形式の解説では第五福竜丸の被災に端を発した「ビキニ事件」の補償に関して日米政府間で外交交渉が行われているさなか、「A級戦犯」釈放を求めていたこと、原子力開発の動きが進行したことなどを米公文書に基づいて明らかにしている。核の戦後史をたどり、世界中に核被害者ヒバクシャがいるお生み出されている「不都合な真実」を知ること、ビキニ事件の真相に迫るヒントを提供している。

連載⑦

晴れた日に  
雨の日に

山村茂雄

七七年のNGO被爆問題シンポジウムには国際専門委員として前年の準備段階から参加されており、七六年一〇月ストックホルムで開かれたSIPRI主催「戦術核兵器に関する国際シンポジウム」に服部学さんを招待するなど、日本の研究者・平和運動との関係が深まっています。

\*

SIPRIは、スウェーデンに平和が一五〇年続いたことを記念し一九六六年に創設されました。資金はスウェーデン議会が提供し、研究員、理事会、科学評議会は国際的に構成される研究機関です。

SIPRIの活動のひとつは「毎年の世界の武器庫におこった主要な量的および質的变化を記述し」軍備と軍縮の進展を示した『SIPRI年鑑』の刊行でした。『年鑑』は年度を重ねて国際的に高い評価を得ているものでした。SIPRIは同時に年鑑各項の要約と結論を収録した小冊子を発行しています。この小冊子の日本語版を原水爆禁止資料センター（準備会）が出版することになるのです。

\*

ストックホルム国際平和研究所編、原水爆禁止資料センター（準備会）訳、監修＝服部学・陸井三郎による七七年年鑑要約の小冊子『世界の軍備―核兵器の脅威』は一月一日に発行されました。

日本語版の体裁は原本のB5判をA5判としたほかは原本通り、本文四〇ページ頒価は三六〇円でした（写真）。

参考小冊子の序論と結論の一部を紹介しておきます。

「世界核戦争の可能性は、着実に増大しつつある。この結論は、軍事技術の発展とその全世界的な拡散の結果を考えれば、ほとんど不可避免的に出てくる」（序論）。「——こうした疑いをもつ人びとは、自明の選択を下す。すなわち核兵器廃絶のために活動することである」（結論）。

\*

このSIPRI年鑑要約の小冊子は七七年以後、年度毎にゲラの段階で原稿の送付を受け翻訳、原本到着後照合、監修＝陸井三郎・服部学として刊行しました。冊子は「核問題シリーズ」と名付けまし

たが、別に「核問題レポート」と題し、ジョセフ・ロートブラット著『原子力と核兵器の拡散』（八〇年刊）など数種のパンフを作成、「原爆写真展パネル」（英・仏・スペイン語解説付き）の普及に取り組みました。

八一年には、原水爆禁止一九八一世界大会にむけて『核戦争が寸前——わたしたちはくいとめられるか』を編集しました。このパンフレットは大会参加者の討議資料として世界大会準備委員会の意向を受け専門家の討論を経てとりまとめたものでした。執筆は討論参加者が分担、川崎昭一郎さんも参加しています。B5判本文四〇ページ発行五月二五日、価二五〇円でした。

パンフの編集名は資料センター（準備会）としましたが、活用に応じ、取扱いの組織・団体名を印刷できる体裁になっています。記憶では全地婦連、日本生協連、日本青年団などが、このパンフレットを活用しました。手元にあるものは発行＝原水爆禁止日本協議会と印刷されています。

\*

資料センター（準備会）の代表は陸井三郎、服部学氏ですが、両氏とも統一後の世界大会との関係では個人の資格で大会運営委員や代表委員を務めています。「大会パンフ」の発行と「忘れまいぞ討論会」（第一回六月二三日）は、五月、六月と連動しています。資料センター（準備会）が「忘れまいぞ」の連絡先として実務を担当することになるのは活動経過から必然でした。

統一世界大会開催後の二つの取組み「忘れまいぞ討論会」は一九八四年七月まで。資料センター（準備会）の作業はSIPRI小冊子『軍備か軍縮か1983』まで。いずれも終了の告知をしないまま終わることになります。

これら二つの活動の事務と実務担当は公表しませんが、多くボランティアの人たち、またこれらの人たちとともに日本原水協事務局有志が協力したことを、この際記しておきます。併せて個人名を挙げたい思いが強く残ります。

（やまむら しげお／第五福竜丸平和協会顧問）







**春の修学旅行シーズン！  
展示館年表リニューアル**

五月の連休明けから、今年もたくさんの小学生、中学生たちが団体見学に訪れています。開館記念日の六月一日日には神奈川県の中学生と山梨県の小学生が来館。記念誌「四〇年のあゆみ」を贈呈しました。この日に合わせて「年表・第五福竜丸と展示館のあゆみ」も一新し、二〇一六年までをたどることが出来ます。

歴史探訪や俳句サークル、会社の同窓会などロシアの団体も多数来館されています。そんな皆さんが館内アンケートに残した言葉から。

◇ゴミの埋め立て地だった頃、ハエがいっぱいのこんなところに、どうして捨ててあ

るのだろうか思っていました。

(江戸川区・六〇代)

◇吹奏楽曲「ラッキー・ドラゴン第五福竜丸の記憶」を演奏するにあたり、楽曲研究に訪れました。開館四〇年の節目に全国からメンバーを募って演奏したいものです。

(兵庫・四〇代)

◇自身の修学旅行のときに展示館に来ました。修学旅行の添乗員として再び訪れる機会があり、懐かしさとともに、第五福竜丸を知らない人たちに語りついでいけたらと思えました。

(三重・二〇代)

◇とても心を揺さぶられました。多くの人がここにくることを願います。

(アメリカ・六〇代)

◇展示館の存在がこれからの核兵器のない世界、戦争ではなく平和への力強いメッセージになっていると思います。

(大阪・六〇代)

◇すごく思いが伝わってきました。

(岩手・一〇代)

◇忘れない、どんなときも。

(東京・一〇代)

◇とても残酷なことがあったとわかった。くりかえしたくない。

(兵庫・一〇代)

**2016年度の評議員会を開催**

公益財団法人第五福竜丸平和協会は、5月29日、2016年定時評議員会を学士会館で開きました。会には7名の評議員（現在員数10）と監事2名と理事が出席し、岩垂弘評議員を議長に選任しました。

議事は、川崎昭一郎代表理事より2015年度の事業および決算について報告がなされ、質疑および審議ののち承認されました。また2016年度の事業計画、予算について報告されました。なお議事録署名人として浅見清秀、岩佐幹三の両評議員が選ばれました。

15年度は、来館者9万545人、団体見学数は789（小学校102校4648人、中学校172校1万220人、高校67校1705人、大学など他学校64校1159人、その他の団体385、1万38人でした。企画展として「ラッセル＝アインシュタイン宣言60年 核なき世界は本当にくるのか〈ヒト〉として考えよう」（6～7月）、記念講演「ヒトとして水爆の時代を考える」（7月5日）。新井卓ダゲレオタイプ写真展『竜の鱗

一アトミックエイジのモニュメント』（7月～10月）、トークイベント「モニュメント／非モニュメント核をめぐる記憶の縁」（8月15日）がおこなわれました。10月10日には「ひびきあう福竜丸のしらべコンサート」が開かれました。

**平成27(2015)年度正味財産増減計算書**  
(単位:円)

経常収益(合計)	28,513,129
基本財産運用収益	43,289
事業活動収益	25,746,450
受取会費	1,804,500
受取寄付金	838,384
雑収益	80,506
経常費用(合計)	26,984,107
事業費(計)	25,060,799
公益目的事業(展示保存・資料収集・普及広報)	24,503,057
その他の事業(出版物・記念品頒布)	557,742
管理費	1,923,308
当期経常増減額	1,529,022
当期一般正味財産増減額	1,529,022
一般正味財産期首残高	26,682,717
一般正味財産期末残高	28,211,739
正味財産期末残高	6,211,739



**国際平和研究学会元会長  
ケヴィン・クレメンツ氏来館**

五月一四日、ニュージーランドのオタゴ大学教授で同国、国立平和紛争センター所長のケヴィン・クレメンツ博士が来館しました。「ブラボー実験の閃光はニュージーランドでも目撃されたといわれ、第五福竜丸が実験場の近いところにいたと知り驚きました。この展示館は

この船と核実験について知ることのできる貴重な博物館です。ここをバスツアーなどのコースに組み入れ、核兵器の問題について学ぶ場にしてはどうか、そのためにもよりいっそう展示などを充実させることを東京都と協会に望みます」とのメッセージを寄せました。

# 船を見つめた瞳 40th

